

松任石川・つるぎ病院だより

平成24年
新春
特別号



松任石川中央病院



つるぎ病院

白山石川医療企業団



公立松任石川中央病院



公立つるぎ病院

TOP MESSAGE

年頭のご挨拶



白山石川医療企業団
企業長 長野 賢一

新年、明けましておめでとございます。みなさまには幸多き新春をお迎えることと心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、まず思い浮かべるのは、日本中を震撼させた3月11日の東日本大震災であります。千年に一度の国内最大規模の大震災と大津波、ならびにあってはならない原発事故が発生し、多くの犠牲者と被災者がでたにもかかわらず、いまだに十分な復興対策がとられていないことが痛みます。しかし、この大惨事において国内外から沢山のボランティアが参加し、わ

が国においては改めて国民一人ひとりの絆の深さ・強さを認識する契機になったと捉えております。

なお、今回の大震災に際し、白山石川医療企業団は、公立松任石川中央病院、公立つるぎ病院の医師をはじめ看護師、薬剤師、事務職員の延べ28人を宮城県石巻市などの被災地へ派遣し、微力ながら医療救護に従事いたしました。

さて、当企業団では、白山市、野々市市、川北町のみなさまが安心して暮らせる安全な地域づくりのため、医療サービス提供の継続的な改革を行ってまいりました。公立松任石川中央病院では、昨年の2月より最新の放射線治療を開始し、4月に石川県地域がん診療連携推進病院の指定を受け、8月にはがん相談支援センターも開設いたしました。これにより人間ドックを中心とした早期発見から、治療、緩和ケアに至るまで、がんに対する包括的な医療提供が

可能となりました。また、公立つるぎ病院においては通所リハビリテーション及び訪問リハビリテーションのきめ細やかなサービスが好評をいただいております。へき地医療拠点病院として吉野谷、中宮、白峰の各診

療所との連携もより強化され、急性期医療も含めた地域に必要な医療の充実に努めております。加えて、地域の医療機関のみなさまには、当企業団の持つすべての医療資源を共同利用していただき、地域完結型の医療提供体制の構築にお役に立ちたいと考えております。

今後当企業団は、「私たちは、みなさまの健康な生活をささえるために」を基本理念に、地域のみなさまの信頼に応えるべく、切れ目のない包括的な医療の提供に努めてまいります。変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。



今、私たちにできること 災害時にも安心・安全な医療を提供するために

マグニチュード9.0、最大遡上

高40.5mという大津波を巻き起こし、東北地方を中心とした太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらした東日本大震災。震災後、宮城県石巻市をはじめとした被災地の医療救護活動に従事した私たちが、想像を絶する大惨事に直面し、災害時における医療提供体制のあり方を再構築しなければならぬという決意を新たにしているところでは

あります。

そこで、公立松任石川中央病院と公立つるぎ病院が、今回の大震災に際し、被災地でどんな医療救護活動を展開してきたのか。また、もし仮にこの白山地域で大災害が発生した場合でも、みなさま方が安心・安全な医療を受けることができる体制を、どのように整備しているのかをご報告させていただきます。

今、私たちにできること 災害時にも安心・安全な医療を提供するために

石巻市などで 医療救護活動に従事

今回の震災発生後、公立松任石川中央病院と公立つるぎ病院では、全職員を対象にした緊急ミーティングを招集。早速、医師や看護師などの人員派遣を中心とした、被災地への医療支援

準備に取りかかりました。間もなく、石川県や石川県医師会、石川県看護協会などから現地入りの要請があり、松任石川中央病院は5回22人の職員、つるぎ病院では2回6人の職員が被災地での医療救護活動にあたりました。

松任石川中央病院は、震災発生から約一週間後の3月21日に看護師2名を派遣。翌

週の27日には、医師や看護師など5名がチームを組み、宮城県石巻市に向かいました。

第一班として現地入りした、救急科専門医師の資格を持つ安間圭一医師は、「私たちが担当したのは雄勝^{おかつ}という地域で、3m以上の津波

体育館に避難する住民の診療にあたる救護班（松任）

が押し寄せたところ。海沿いは壊滅状態で、思わず目を覆いたくなるほどでした」と当時の惨状を振り返ります。安間医師らは、石巻赤十字病院にある災害対策本部と連携を図り、



被災を免れた家屋は地域住民の避難所となっていた（松任）

避難所となっていた保育所などの巡回診療に従事。まだ雪の降りしきる季節のうえ、余震による精神的な不安も積み重なっていたため、風邪の予防や血圧測定、日常的に服用している薬の過不足のチェックなどに重点を置いて診療に取り組みました。

八木雅夫病院長も、JMAAT

（日本医師会災害医療チーム）の一員として、福島県相馬市へ出向きました。避難所となっていた小中学校で巡回診療を続けているうち、八木病院長は医療の本質に直面したと言います。「公共性が高い医療の本質は、そもそもボランティア精神が原点となっているのだと再認識したの



被災地に向いた職員による報告会。全スタッフで危機管理を徹底（松任）



地図で巡回診療の位置と経路を確認（つるぎ）

です。この被災地での経験を踏まえ、いかなる状況においても、より質の高い医療を展開していきたいと固く決心しました」と想いを込めます。

一方、公立つるぎ病院も、石巻市に医師や看護師らを派遣。3月26日に現地入りした際、被災者の病歴を調べるカルテの多くは津



他病院スタッフとの合同カンファレンスで被災者の情報を共有（つるぎ）



避難所には仮設ベッドも設けられ、寝たきりの方の診療も行う（つるぎ）

波で流され、簡単な検査器具ですら充分に取り揃っておらず、診療活動は難航しました。しかし、被災者に適切な医療や看護を実施するための研修を受けた「災害支援ナース」が、慢性疾患や精神疾患のケア、疾病予防など中長期的な看護業務を行う中で、被災者の方々の不安な気持ちを和らげるこ



地元消防隊の協力で、実際に救急車を使った訓練が行われた (松任トリアージ)



テント内での応急処置の後、患者は院内に運ばれた (松任トリアージ)

停電でエレベーターが止まることを想定し、階段を使って患者を搬送 (つるぎトリアージ)



健診センター前にテントが張られ、悪天候にも対応できる環境を整えた (松任トリアージ)

とに微力ながら貢献できたと考えられています。

この派遣を指揮した宮本正治病院長は、「平成19年3月に発生した能登半島沖地震の際、全国から集まった災害支援ナースが活躍されたので、当院でも有事に向けて看護師の育成に取り組んでいたのです」と語ります。

トリアージ訓練などで 非常時にも対応できる 体制づくり

一般的に、石川県は大規模地震が発生する可能性が低い県だと言われています。しかし、今回の震災のような大惨事が起こらないとは限りません。そこで、両病院では、数年前から全職員を対象としたトリアージ訓練を実施しています。トリアージとは、災害時における多数の傷病者を重症度や緊急性によって選

また、災害支援ナースだけではなく、「広域な被災地での物的・人的資源の協調や調整を行う、災害医療コーディネーター」の育成にも着手したい」と、より万全な災害医療体制の整備を思い描いています。

別し、治療の優先順位を決めること。この訓練を断続的に行うことで、限られた医療資源のなかで最善な救命処置を施す体制を構築しています。

昨年末の訓練では、骨折して歩けない患者役、意識がもうろうとしている患者役などが登場。医師によるトリアージ後、ストレッチャーや担架、車椅子で院内へ速やかに誘導する訓練が行われました。また、地元の消防隊の協力を得て、実際に患者役が救急車で搬送されるシーンもあり、より臨場感あふれる訓練となりました。

両病院が取り組む災害対策はこれだけではありません。普段から非常時に向けて食料や飲料水

備蓄していますが、多数の帰宅難民が出ることを想定し、備蓄量の見直しを進めています。さらに、災害時にも最低限のラインが確保できる環境を目指しています。



傷病の具合を速やかに判断する技術・能力が求められる (つるぎトリアージ)



搬送された患者情報は掲示板に貼り出して二元管理 (つるぎトリアージ)

今回の震災は、私たちにさまざまな教訓を与えてくれたと考えられています。今後私たちが、地域のみなさま方が災害時にも安心して過ごしていただける仕組みづくりに取り組んでまいります。

みなさまの健康な生活を支えたい①

公立松任石川中央病院の挑戦

当院は、ぬくもりとおもいやりの医療を理念に、地域の中核病院として、地域住民の方々の幅広いニーズに合わせた医療を展開しています。なかでも近年は、がん医療体制の整備に注力してきましたが、その一貫した流れが評価され、昨年4月、石川県地域がん診療連携推進病院の指定を受けました。みなさまにとって安心・安全な医療とは何か。その課題をつねに追求する当院の取り組みをご紹介します。

「地域の中核病院としての責務を全うしていきます」と語る八木雅夫病院長



がん相談支援センターでは、治療方針や薬の副作用など、さまざまな悩みに答えます

最先端のPET/CTを駆使し、がんの早期発見などに貢献



LINAC（放射線治療機器）は、脳から四肢まで全身のあらゆる領域の病変に対応



診断から治療、緩和ケアまで 包括的ながん治療体制を整備

当院は、がんの早期発見に効果を発揮するPET（陽電子放射断層撮影装置）を、全国の公立病院の中でもいち早く導入。昨年から、より精度の高いPET/CTと、念願の放射線治療機器であるLINACを増設するなど、がんの診断から治療に至るまでの質の高い医療環境を整えてきました。

また、がん患者の「生活の質」向上のため、従来からあった外来化学療法室を拡張。入院せずに治療を続けることができるため、はりのある日常生活を送れると好評を博しています。

さらには、精神的な苦痛を取り除き、その人らしい快適な生活をサポートするため、緩和ケアもスタート。昨年8月、がん相談支援センターを院内に設置し、専任の看護師や医療ソーシャルワーカーが、がんに関わるさまざまな悩みや疑問に答えています。

これら一連の取り組みにより、がんの診療から治療、化学療法や緩和ケアまでの包括的な医療提供体制が一層強化され、身近な環境で質の高いがん診療を受診できるという体制を整えました。

なお、PETという高度医療機器は、認知症の早期発見にも役立つという一面もあります。PETセンター内にある認知症研究所では、PIBという検査薬の投与後に、PETによる脳の画像診断を行い、アルツハイマー病の原因物質を特定するという手法を展開。北陸の医療機関で初めて取り組んでいる画期的な診断方法として注目を集めています。



近隣の開業医などを集めた合同カンファレンスを定期的に開催。連携促進に努めます



院内随所には絵画や生花、彫刻などが飾られ、心安らぐ空間を演出しています

3D/4D超音波による画像から、生まれてくる赤ちゃんが両親のどちらに似ているかも聞くことができます。



地元医療機関との連携を促進し 地域完結型の医療を目指す

地域のみなさまが、身近な環境で質の高い医療を受けられる取り組みは、このほかの場面でも追求しています。

たとえば、産婦人科において、昨年12月から3D/4D超音波診断装置を導入したのもその一例です。これは、リアルタイムで子宮内の胎児の様子を確認することができる装置で、立体的な画像(3D)や動画(4D)も可能です。輪島塗の臍帯箱のプレゼント、ご家族とのフルコースディナーのサービスなどと併せ、出産という一大イベントをサポートし、家族の絆を体感していただく工夫も行っていきます。

また、昨年9月には外来看護相談室を設置。不眠や感染症予防、主治医との関係など、療養生活や日常生活のさまざまな疑問や不安について、認定看護師がお答えしています。ご相談される方のプライバシーは厳守していますので、どうぞお気軽にご相談ください。

このように、当院が新たな医療体制の構築に取り組み続けるのには理由があります。それは、地域完結型の医療環境の実現を目指しているからです。地元の医療機関との連携を密に図り、当院の機能を共同利用していただくことで、より高レベルな医療の標準化を目標としています。地域の中核を担う「ハブ病院」として、私たちはさらなる変革を見据え、みなさまがより安心して暮らせる街づくりに貢献していきます。

みなさまの健康な生活を支えたい②

公立つるぎ病院の挑戦

公立つるぎ病院はこれまで、へき地医療拠点病院として、鶴来地区や白山ろく地域の方々の幅広いニーズに応える医療提供体制を整備してきました。そんな中、回復期リハビリテーション病棟を開設するとともに、医学的根拠に基づいた通所リハや訪問リハを開始したところ、地域のみなさまから高い評価をいただいています。そこで、地域の社会的背景を踏まえた当院の向かうべき道を、みなさんと一緒に歩んでいきたいと思っています。



外来診療では、受診される方の気持ちを少しでも汲み取るよう対話を重視



「思いやりのある医療・介護サービスを追求しています」と語る宮本正治病院長



放射線室にある遠隔画像診断装置。診療所とオンラインで結ぶことで、専門医による速やかな診断が実現



訪問診療を行う吉野谷診療所の橋本宏樹所長

地域情勢を見据え、

在宅での生活を促進し、支える機能を強化

当院にはこれまで、急性期から療養までの入院機能、また数多くの診療科を備え手広い診療体制を敷いてきました。地域特性に基づき住民の方々の利便性を考慮し、わざわざ遠方の医療機関へ出向く必要のないよう、この地域で完結できる医療体制を目指してきた歴史があります。

近年、地域住民の方々の高齢化が進み、この地域で必要とされる医療のあり方が徐々に変化する中、つるぎ病院は救急や急性期を中心とした医療から、社会復帰の促進・在宅療養を視野に入れることとし、リハビリテーション医療の拡充、また在宅での生活を支える機能を充実させる道を選びました。

そこで、平成18年に回復期リハビリテーション病棟を開設。高齢者の方々のニーズの高まりを実感しながら増床を繰り返し、平成22年にはリハビリテーション棟を増築、通所リハビリテーションセンターを開設するまでに至りました。また、訪問看護ステーション、地域開業医師と連携しての訪問看護と診療の数も増加しつつあります。

この一連の変革について、宮本正治病院長は、「地域住民のみなさま方のご要望に添えていくなかで、必然的に生まれた方策なのです」と強調。現在、訪問リハを加えた介護サービスは、多くの地域住民の方にご利用いただいております。地域情勢の変化を踏まえ、この地域に必要とされる最適な医療・介護サービスを提供できる環境を整えるこの取り組みは、一定の成果を上げるまでに成長しています。



天井から吊り下げられたロープを用いた体操、スリングセラピーも人気



残存能力を引き出すための効果的なリハビリを展開します



心臓リハビリは過度な負担がかからないよう、スタッフが傍で見守ります



風船パレーはいつも盛り上がるリハを兼ねたレクリエーション

病院から専用車両で訪問リハへ



MRIを配備。病変を速やかに発見する環境があります

一人ひとりに合った リハビリメニューを展開

当院が展開している通所リハは、遠隔地までの送迎も行う、リハビリを中心とした介護サービスを継続しており、利用される方の「やりたい」という願望を「できる」と実現に変えることに重点を置いていきます。ご本人の意思を尊重しつつ、理学療法士や作業療法士などの専門スタッフが、一人ひとりに合ったリハビリプログラムを実施。各自の可能性を最大限に引き出す支援を展開しています。

また、訪問リハでは、手足の麻痺などで通院できないという方々のために、リハビリ専門スタッフがご自宅を訪問し、住み慣れたご自宅で快適に過ごしていただくためのリハビリを展開しています。

これら介護サービスのリハビリは、主治医の診断に基づいて効果的に行われるため、退院後の生活に不安がなくなったとの声がよく聞かれます。

このほか、在宅サービスとして、訪問診療も展開。白山石川医療企業団内の吉野谷、白峰、中宮の各診療所と連携を図り、当院から医師の派遣も行い、診療所と共に診療を充実させています。

医療・介護サービスを住み慣れた自宅で受けたらという在宅志向が高まる中、「当院では今後もサービス内容を高めつつ、地域住民のみならず安全な地域での生活をサポートしていきたいと考えています」と宮本病院長は、さらなる進化を思い描いています。

連携医療機関一覧

- | | |
|------------------|---------------------|
| 浅井小児科医院 | 千代野苑 |
| あさがおクリニック | つじ川内科クリニック |
| 旭診療所 | 津田内科医院 |
| 有川整形外科医院 | 津山クリニック |
| 池田病院 | てらしま内科クリニック |
| いこまともみレディースクリニック | とみたクリニック |
| いのくち内科医院 | 長尾医院 |
| 今村耳鼻咽喉科医院 | ながしまクリニック |
| 井村内科医院 | 中島内科医院 |
| ういえ耳鼻咽喉科クリニック | なかでクリニック |
| うしむら眼科クリニック | 中村皮フ科クリニック |
| 大倉外科医院 | なごみ苑 |
| 岡村内科医院 | なんぶこども医院 |
| 御経塚クリニック | にしかわクリニック |
| 織田内科クリニック | 野々市こころのクリニック |
| 小野木医院 | ののいち産婦人科クリニック |
| 金沢脳神経外科病院 | ののいち白山醫院 |
| かわい小児科医院 | はしもと内科クリニック |
| 川北温泉クリニック | ばんどう内科診療所 |
| 川北こどもクリニック | 深江レディースクリニック |
| かわきた整形外科醫院 | 福留クリニック |
| 河内うらた医院 | 船木病院 |
| 喜多内科医院 | ふるさわ内科クリニック |
| 北村内科医院 | べんクリニック |
| 恵愛会 松南病院 | ほりかわクリニック |
| 斉藤小児科医院 | 松任整形外科クリニック |
| さかえ内科クリニック | 松葉外科胃腸科クリニック |
| 真田医院 | 南ヶ丘病院 |
| さなだクリニック | みやうち眼科 |
| しおのやクリニック | 三幸小児科医院 |
| 嶋医院 | むとう小児科医院 |
| 下崎整形外科医院 | 森 明弘クリニック |
| しらお眼科 | 矢ヶ崎外科医院 |
| 新内科医院 | 安原医院 |
| 新村病院 | やなぎ内科クリニック |
| すえよし整形外科クリニック | やまかわ内科クリニック |
| せいだクリニック | やまぎしレディースクリニック |
| 聖来美クリニック | 山本クリニック |
| だいもん内科・腎透析クリニック | やまもと内科医院 |
| 高田内科クリニック | 吉光内科医院 |
| たけお皮膚科クリニック | 吉村眼科医院 |
| 谷内科歯科クリニック | 米田内科医院 |
| 太郎田医院 | わかば内科クリニック |
| ちくだ医院 | わかばやし眼科クリニック (50音順) |

認知症

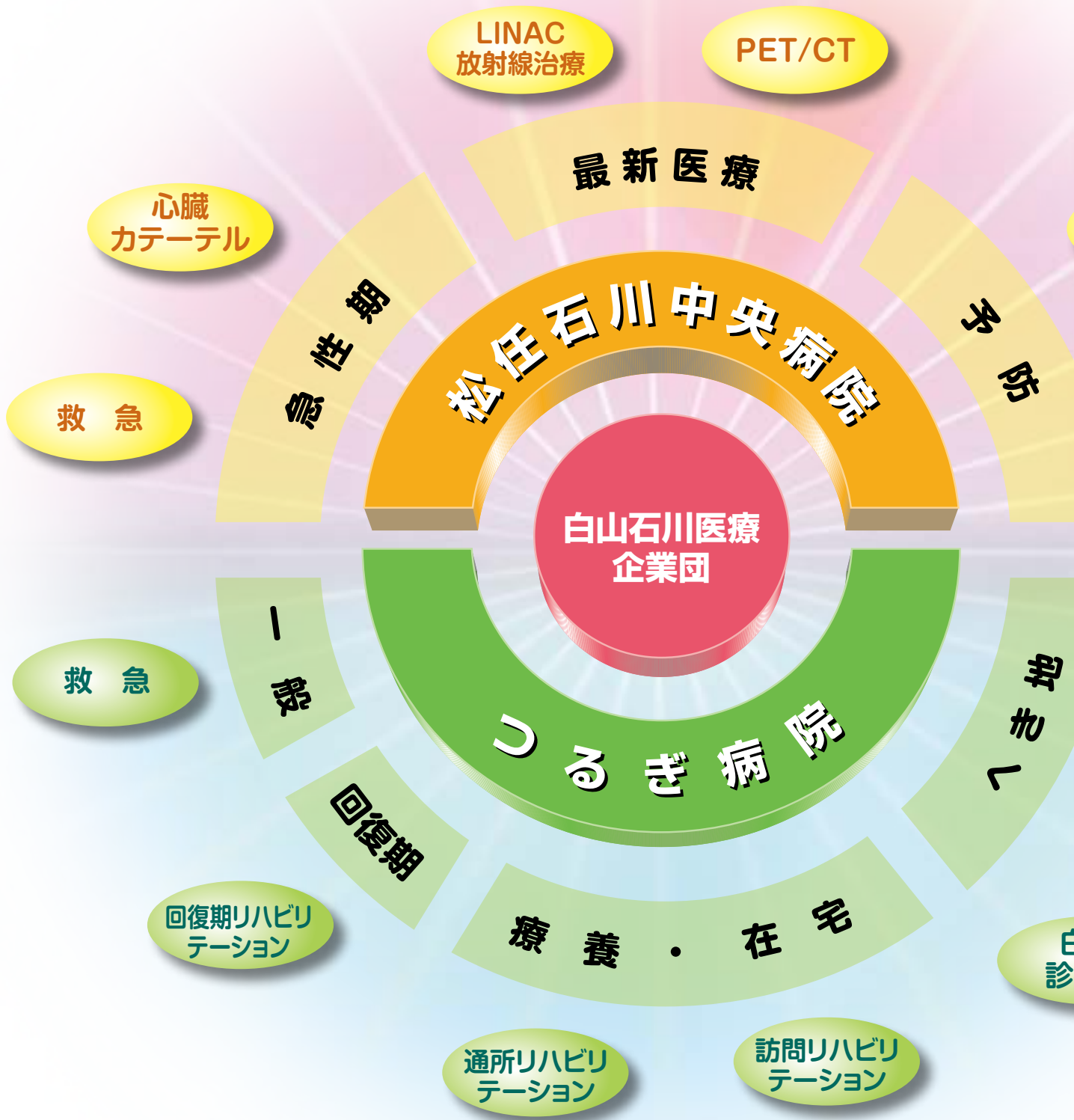
人間ドック

吉野谷
診療所

中宮
診療所

白峰
診療所

連携ネットワーク



白山石川医療企業団
基本理念

私たちは、みなさまの健康な生活を支えるために

- ・期待にこたえられる良質な医療に努めます
- ・安心・安全で信頼される医療に努めます
- ・切れ目のない包括的な医療に努めます

 公立松任石川中央病院

TEL : (076) 275-2222 / FAX : (076) 274-5974

■受付診療時間

午前 8時～11時30分

午後 12時30分～16時30分

※休診日 土・日・祝/年末年始

※緊急の患者に関しては救急外来にて診察いたしております

※午後は、診療科によって異なりますので、
詳しくは当院ホームページをご覧ください

URL : <http://www.mattohp.jp>

■診療科目

一般内科、糖尿病内分泌内科、消化器内科、
循環器内科、呼吸器内科、腎高血圧内科、神経内科、
神経科精神科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、
皮膚科、形成外科、ひ尿器科、産婦人科、眼科、
耳鼻いんこう科、歯科、甲状腺診療科、ものわすれ科、
麻酔科、放射線科、放射線治療科、リハビリテーション科



- 住所 石川県白山市倉光三丁目8番地
- アクセス JR松任駅からバスが運行されています

 公立つるぎ病院

TEL : (076) 272-1250 / FAX : (076) 272-3144

■受付診療時間

午前 8時～11時45分

午後 12時45分～16時30分

※休診日 毎月第2、4土曜日、日、祝日/年末年始

※毎月第2、4土曜日以外の土曜日は、午前のみ診療

※緊急の患者に関しては救急外来にて診察いたしております

※受付診療時間は、診療科によって異なりますので、

詳しくは当院ホームページをご覧ください

URL : <http://www.tsurugihp.jp>

■診療科目

内科、糖尿病・内分泌内科、消化器内科、循環器内科、
呼吸器内科、脂質代謝内科、神経内科、腎臓内科、
膠原病・リウマチ内科、小児科、外科・胃腸科、整形外科、
脳神経外科、皮膚科、ひ尿器科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、
ものわすれ科、放射線科、リハビリテーション科、健診科



- 住所 石川県白山市鶴来水戸町ノ1番地
- アクセス ・加賀産業道路「安養寺北」交差点より国道157号を白峰方向へ10分
・北陸鉄道石川線 「鶴来駅」徒歩15分



吉野谷
診療所



中宮
診療所



白峰
診療所